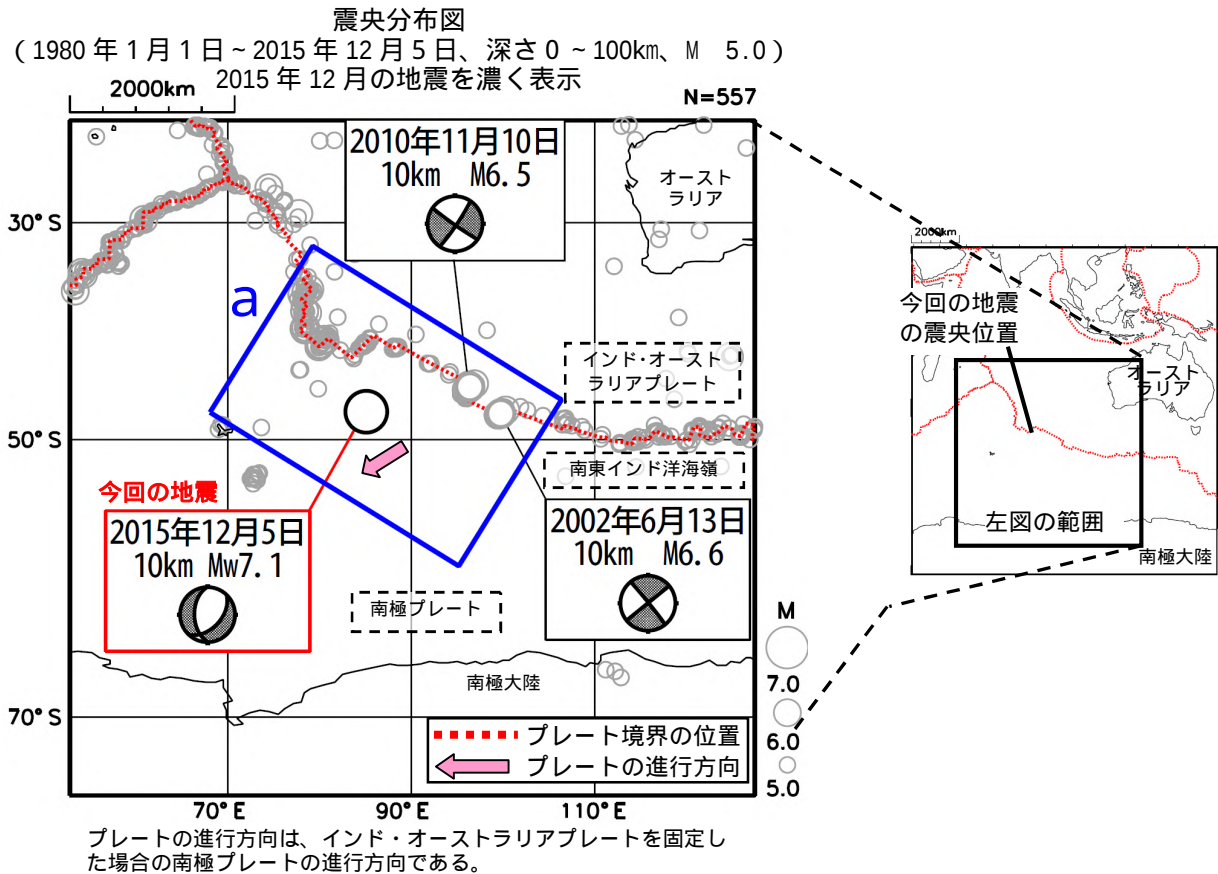


12月5日 南東インド洋海嶺の地震

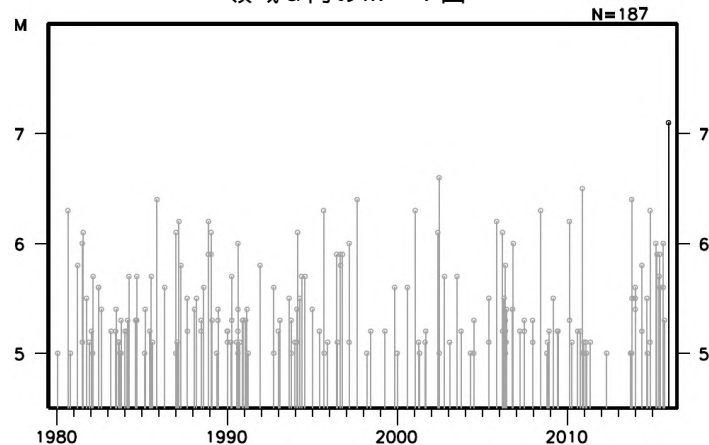
2015年12月5日07時24分（日本時間、以下同じ）に、南東インド洋海嶺の深さ10kmでMw7.1の地震が発生した。この地震は南極プレート内で発生した。発震機構（USGSによるCMT解）は西北西-東南東方向に張力軸を持つ正断層型である。今回の地震は、南極プレートとインド・オーストラリアプレートの境界にある南東インド洋海嶺付近で発生した。

1980年以降の活動を見ると、南極プレートとインド・オーストラリアプレートの境界付近では、M6.0以上の地震は時々発生しているが、プレート境界から離れた今回の地震の震央付近では、M5.0以上の地震もなく、M7を超える地震は今回が初めてである。

なお、気象庁は同日07時54分に遠地地震に関する情報（日本への津波の影響なし）を発表した。



領域a内のM - T図



本資料中、発震機構、Mw及び震源要素は米国地質調査所（USGS）による（2015年12月5日現在）。プレート境界の位置はBird（2003）*、進行方向はUSGSによる。

*参考文献 Bird, P. (2003) An updated digital model of plate boundaries, *Geochemistry Geophysics Geosystems*, 4(3), 1027, doi:10.1029/2001GC000252.

12月7日 タジキスタンの地震

2015年12月7日16時50分（日本時間、以下同じ）に、タジキスタンの深さ29kmでMw7.2の地震が発生した。この地震はユーラシアプレートの地殻内で発生した。発震機構（USGSによるCMT解）は北北西-南南東方向に圧力軸を持つ横ずれ断層型である。今回の地震は、インド・オーストラリアプレートとユーラシアプレートの境界から約400km北で発生した。今回の地震の震央周辺は、この二つのプレートの衝突の影響で、大きな被害を伴う地震が度々発生している。

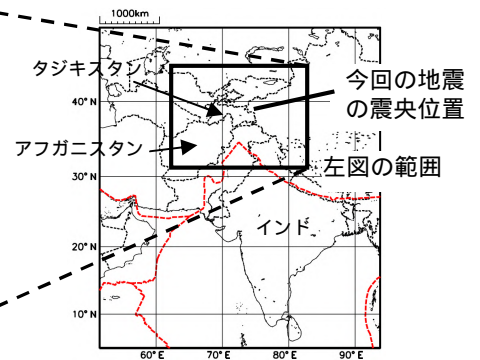
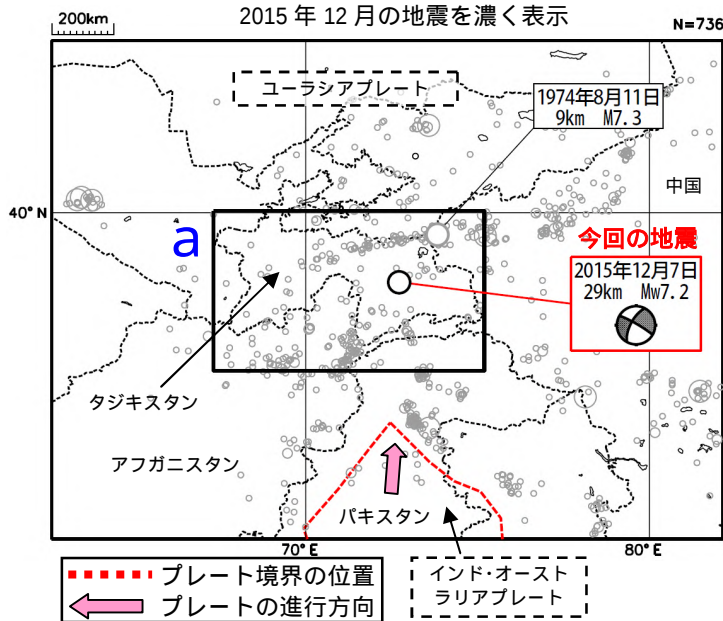
1970年以降の活動を見ると、今回の地震の震央周辺（領域a）では、タジキスタンの北東部から中国の西部にかけて地震活動が活発で、1974年にM7.3の地震が発生した。

1900年以降の活動を見ると、1911年に今回の地震とほぼ同じ場所でM7.3の地震が発生している。この地震により、死者90人の被害が生じたほか、地すべりが発生し川がせき止められ、湖が形成された。また、今回の地震の震央から北西に約200km離れたタジキスタン中央北部で1907年にM7.4、1949年にM7.5の地震が発生し、それぞれ死者15000人、12000人と大きな被害が生じた。

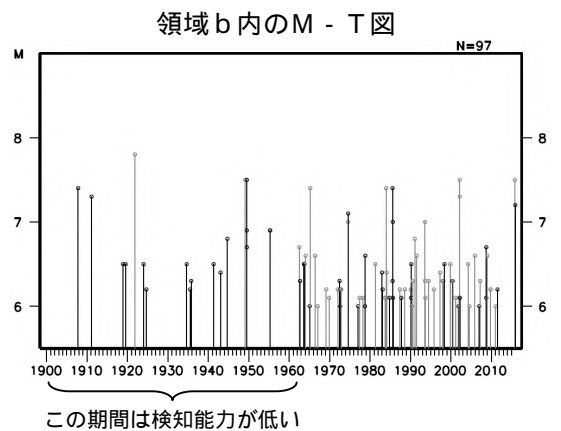
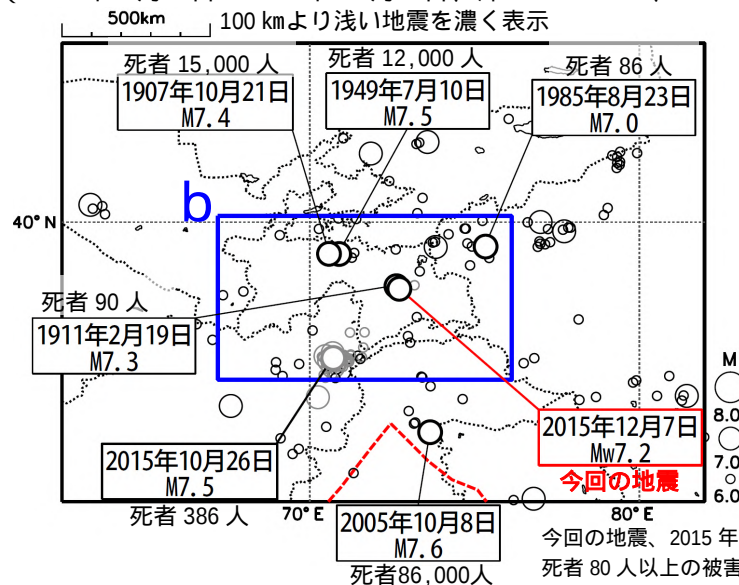
なお、気象庁は同日17時19分に遠地地震に関する情報（津波の心配なし）を発表した。

震央分布図

（1970年1月1日～2015年12月7日、深さ0～100km、M 5.0）



震央分布図
（1900年1月1日～2015年12月7日、深さ0～300km、M 6.0）



この期間は検知能力が低い

今回の地震、2015年10月26日の地震及び深さ100km以内かつ死者80人以上の被害を生じた地震に吹き出しを付けた。

上の震央分布図中の発震機構、Mw及び震源要素は米国地質調査所（USGS）による（2015年12月7日現在）。下の震央分布図中の、1900年～2009年の地震の震源要素は国際地震センター（ISC）、2010年以降の地震の震源要素はUSGSによる。被害等は、USGS、OCHA（UN Office for the Coordination of Humanitarian Affairs: 国連人道問題調整事務所）、理科年表及び宇津及び国立研究開発法人建築研究所国際地震工学センターの「世界の被害地震の表」による。プレート境界の位置はBird（2003）*、進行方向はUSGSによる。

*参考文献 Bird, P. (2003) An updated digital model of plate boundaries, *Geochemistry Geophysics Geosystems*, 4(3), 1027, doi:10.1029/2001GC000252.

気象庁作成